

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500164		
法人名	社会福祉法人光総会		
事業所名	ぐるーぷほーむやすらぎ		
所在地	熊本県天草市五和町御領6447番地		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成28年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の雰囲気而努力している。医療・介護・社会生活的側面を重視し、個人の可能な所から生活向上に職員全体で個人の把握をして努力している。社会生活を積極的にを行うため医療・介護的側面の確認と記録を行い、心身安定を図り、外出など行えるようにしている。利用者様の状況把握の為、昼間カンファレンスで医療・介護・社会生活と、各利用者様の事を毎回検討している。T式カードでは、2週置きに、職員が担当利用者様の必要な事を記入し、具体的ケアに活かしている。そして、OJT職能向上委員会、服薬管理委員会、地域ふれあい行事検討委員会、認知症変化確認委員会、ヒヤリハット事故苦情感染予防委員会、身体拘束虐待予防委員会活動を各職員が担当、毎月職員会議などで検討改善を行い、介護サービスの向上を図っている。最近特に褥瘡予防ケアを施設で取り組みはじめた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「1日100回の笑顔が作れる」を目指す施設。母体の医療法人「長野内科小児科医院」と同じ敷地に、ぐるーぷほーむ「やすらぎ」があり、天草の高齢者の医療・介護の基地として安心を提供している。ここで働く職員も、介護提供を受ける利用者も「共に同じ時を過ごせることを喜びと感ずる」ことを前提に、「互いに尊重しあえる心を育み、穏やかな時間が過ごせるような支援ができる施設」を目指している。現在、利用者は女性のみ。静かだが、昼食時は「おいしいね」「これあげる」と、仲良しの会話や職員の介助で、和やかな雰囲気となっており、とても心地よい空間を感じた。居室とホールとの行き来や、「昼寝」とか「買い物に行きたい」とか、それぞれ自由に選択されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員で創り、事務所の壁に掲示している。毎朝申し送り後に職員が唱和するように決めている。そして、理念に基づいた対応に努められるように、施設内研修のテーマも理念と一貫性が出る様に配慮している。	理念4項目を掲げ、サービスのあり方を端的に示している。毎朝のミーティングで唱和し、日々の生活の中で意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ふれあい月行事検討委員会が天草市の広報を確認し、地域の催し物に参加出来るようなものは参加している。そして、委員会ファイルに記録を取っており、各利用者様がそれぞれに偏りなく参加できるようにしている。夏祭り、家族会開催、街の喫茶店へ出かけたりしている。	地域敬老会に参加したり、町の文化祭、秋宵祭り、保育園との連携等、地域での催し物への参加し、地域の人たちとの繋がりや出会いを体験している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天草市老人クラブ連合会主催のシルバーヘルパー講座、家族介護教室、五和中学校福祉体験学習を毎年実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御領多機能やすらぎとの合同運営推進会議をほぼ2カ月に1回実施、利用状況や月行事参加、事故や苦情等に関する報告を行い記録を残している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、出席者も行政、社協、老人会、区長、消防団、利用者家族、医師等の幅広い関係者により意見交換を行っている。質問等も多く、ヒヤリハット報告や感染症防止の注意連絡など、多岐に渡り話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、天草市や社会福祉協議会より参加して頂いている。また、サービス等での解らない事は電話して聴いたりする。	運営推進会議には、天草市高齢者支援課、地域包括支援センターから担当者が常に参加し、ホームの状況について把握している。又、日頃から不明な点等相談しており、協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所の職員業務の手引を作成し、その中に身体拘束に関する注意事項を記載、全員が把握できるようにしてある。身体拘束・虐待予防委員会の毎月の活動で身体拘束しそうな利用者様への確認用紙の記入、職員の虐待予防確認用紙の記入、施設の不適切な事例検討会記録と報告を毎月行っており、毎月の職員会議時に報告検討改善を行っている。又、強化月刊で年に1回虐待防止強化としての取り組みを行っている。また、施設内研修でも、年に1回身体拘束・虐待予防についての研修を実施している。	毎月の職員会議にて事例検討会の報告を行い、再度起こらないような対策を取っている。事例検討として、ヒヤリハットの転倒事例に対して「注意行動一覧」にまとめ、職員同士の共有を図り、未然防止に繋げている。職員全員が事業所内研修会に参加し、自分のこととして対応している。尚、入居者の介護記録をデイルームのカウンターに広げ、気が付いた事はすぐ書き込めるようになっており、スタッフ全員が記録に目を通すことで、身体拘束に繋がる対応は是正につながっており、良い成果を挙げているものと思われた。	施設内研修は年に1回開催され、全職員間にて、共有が図られているが、施設外研修の参加機会が、少ないように思われるので、参加した人が持ち回りで、勉強会の講師を務めるなどすると、更に効果が出ると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所に職員業務の手引を作成、中に虐待について記載があり、職員が自由に閲覧できるようにしてある。また、記録や様子を見て適時口頭でも注意・指導・記録をするようにしている。虐待防止委員を1名任命し、職員の虐待のチェックシート、虐待に関する理解、利用者様の身体拘束チェックシート、虐待の有無の確認表を毎月1名ずつ実施しており、施設内の不適切な対応の事例検討も実施している。そして、職員会議時に記録の確認と報告検討改善を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて年に1回、高齢者の地域権利擁護・青年後見人制度についての研修を行い理解を深め記録を残している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項・個人情報取扱承諾書は、家族と本人の前で必ず施設長が1時間ほどかけて、全文の読み合わせを行い、質問などに答えられるようにしてある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価時の家族アンケート調査、運営推進会議の家族参加と意見聴取、施設の家族参観日アンケート調査など、ご家族の意見を直接伺える機会を設けており、それ以外は必要に応じて家族連絡などを行い、話や相談ができるようにして記録に残している。	家族アンケートは家族参観日に実施しており、「大変好い、職員がやさしい、本人が明るい」とか、毎日会いに来られる家族や月1回、3ヶ月に1回等、様々ではあるが、家族との連携を図る体制づくりが出来ている。家族参観日には、ケアマネージャーが、利用者一人ひとりの1週間の状況を詳しく説明し、理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催している。記録があり、昼のカンファレンスやほか施設の書式や委員会活動でも直接様々な話が聴けて、介護等の工夫をして、運営に反映できるようにしている。	職員会議で、日常の介護の基本の見直しを常に行っている。排泄については、トイレの誘導の際や排便の様子の変化に気づいた際は、医療との連携で対応している。水分摂取については、お茶碗による100CCか150CCの違いを見極めて、1日の水分量のチェックを行うなど、細やかなところまで職員間で共有を図っている。なお、それぞれの意見をきちんと言える環境が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり、勤務表、出勤簿が準備されている。OJT職能向上委員会活動があり、毎月職員1名に対して、OJT計画シート、個人職能確認シートの実施により、よりの確に仕事の能力の向上が図れるようにしている。また、職員の研修計画参加確認を年間を通して実施出来る様になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT職能向上委員会活動を通して、職能評価を行っており、施設内・外の研修について参加計画や確認報告により、向上努力が図られていると思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時々、研修会に出席できるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設へアクセスがあったときから、利用相談関係の書類への記入をする。アセスメントシートにてご利用前に調査・対話記録などをのこし、本人の好きな事や嫌いな事を事前に直接調査し、性格や変化を検討し相談を進めるようにしている。そしてそれを調整し、介護支援計画に反映出来る様工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時より、本人と家族のニーズの見極めが出来るように規定の書式に記入相談し、介護支援計画も決定前に1度は目を通してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時より、家族のニーズの見極めが出来るように規定の書式に対応優先順位を記入できるようにしている。また、カンファレンスやT式カードの使用で随時必要と思われるケアを優先するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様と共同で考えたり、洗濯ものを畳んだり、一緒に食事をし、できるだけ生活共同体的な配慮をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が時々ある。帰宅願望の方は、自宅への連絡対応などを考えている。毎月1名家族参観日を設けて、一人の利用者様の家族に來所してもらい、家族で昼食を食べ、家族の時間を過ごすとともに、施設対応等について、アンケート票に記入をお願いしている。また、運営推進会議への参加と意見を発表してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいるお店などへ一緒に出掛けしている。また、家族参観日に家族との面会で日頃の利用者様の様子を確認してもらい、確りとした関係づくりを行っている。	自宅に帰っても家族が不在であったりするため、馴染みである近くの食堂へラーメンを食べに行ったり、喫茶店へお茶やケーキなどを食べに出かけるなどしている。なお、梅・桜・藤・ツツジなどの花見に弁当持参で出かける等、地域の人との出会いの関係支援を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を配慮して、席の場所を考えたり、レクリエーションを通じて皆さんで楽しみ、お互いの健全な関係を構築するお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設への橋渡しを滞りなく行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員が、各利用者様の対応を行い、屋のカンファレンスやTカード対応時に意見を記入し改善するようしている。そこで、担当の職員次第だが、各利用者様の思いへの反映をできる事もある。個人記録へ午前と午後に利用者様の笑顔や不快等の調子の記録をする様に施設長より指示されている。	利用者全員が団らんの出来る中央の広い部屋で、テレビを見たり、職員や利用者同志で語り合うなど、穏やかな時間を過ごされている。天気が良い日には、行事を見るために近くの保育園を訪ねることもある。職員が細目に亘って記載している「やすらぎ介護記録」には、「一人ひとりが笑顔で過ごせるように」と目標に掲げ、それぞれの日々の暮らしの変化に注意を払い、介護している記録が多く見られた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを取り、利用者様に合ったケアプランを作成し支援している。各利用者様の部屋へは、思い出の品などの持ち込みをしてもらっている。利用者様の昔の写真などを部屋の前に貼りだしたりしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADL変化、疾病の変化について、Tカード対応や、受診ノートへ記録と病院申し送りを不備なく行える様式の工夫を行い記入をしている。また、特記事項を個人記録へ記録している。また、変化等の対応が必要な時は、Tカード等で対応したり、業務日誌への記入等で各職員や対応適確者で対応する様にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと他職員で、家族や本人との会話や屋のカンファレンスを活用しケアプランを作成している。モニタリングも様々な様式に残るようにしている。また、担当者会議の時医師や管理者、他職員や本人と家族から、適切に意見の調整を行いケアプランを変更するときがある。	ケアプランに実現可能な目標を掲げ、支援内容を組み立てる努力をしている。特に、笑顔の状態や気持ちの沈んでおられる時の様子を細やかに記録に残し、対応を的確にして職員間の共有を図っている。チームによる介護計画の作成とモニタリングがよく対応しているように思われた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を取っており、認知症の変化や周辺症状の変化について、委員会が活動しており、さらに各委員会活動やTカードにて個人の特別変化の対応を記録して、具体的に対応できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族参観日の開催、お盆のお寺参り、外食支援、買い物支援、また、春の花盛りの季節のその日に決めた花見などを実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに協力してもらって交流をはかったり、地域行事にも参加するようにしている。保育園交流や買い物支援、敬老会の開催、など地域ふれあい月行事活動検討委員会によって検討実施され記録が残っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常があれば係り付けの医師と連絡や通院申し送りに記録して、もしくは、適切な医師への連携を図り適切な医療対応が出来るようにしている。また、担当者会議時に、掛かりつけ医師の参加がある時に様々な状態の調整を行っている。	同じ敷地内にある医療機関が、大半の利用者のかかりつけ医であり、医療連携が密に取れている。特に、水分補給が不十分な場合、脱水症状気味の利用者に対して、医療との早めの連携で改善を図っている。食事量の少ない人にお茶と刻み食を交互に食べてもらったり、ミキサー食に変える等の工夫もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診される際などに通院申し送りノートへ利用者様の変化などを記録し、看護師との連携が取れるようにしている。毎月の職員会議時に看護師の参加が時々あり施設との連携について検討できるようにしてある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリー等情報のやり取りを行い、入院時利用提供表の作成をし状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書・重要事項説明書に重度化した方への対応方法や終末期の対応方法についての方針を掲げてはいはいるが、いまだに対応経験がない。	現在は、病院との連携を基に、利用者や家族の意見を重視しながら、終末期は隣接の病院での対応が殆どとなっており看取りの経験は有していない。施設長は、終末期対応研修会へ職員が参加し、職員のメンタルヘルス対応の支援体制を整え、終末期をホームで対応できるようにする事が必要であると、考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	7月にヒヤリ・ハット。事故予防、苦情、感染予防委員会活動の一環として、救急蘇生法として消防隊の方より講習を受けている。又、その月の職員会議にて転倒骨折対応と誤嚥窒息時の対応を施設内研修で実施し研修報告書の提出がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月交互に火災避難訓練と火災通報訓練を実施している。年に2回は隣接する施設と合同の火災消火避難通報訓練を実施している。	火災訓練については、施設が2階にあるので、エレベーターと階段の両方を使い、利用者の体調に合わせて対応している。訓練は毎月行い、年2回は小規模多機能施設と合同で「火災消火訓練」と「通報訓練」を実施しており、近隣施設との協力体制も十分に図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待予防委員会で毎月活動で利用者様プライバシーの確認作業を行い、契約時に重要事項へ個人情報とプライバシーについて対応を家族や利用者様に話している。他に年に1回施設内研修「介護施設の法令遵守：介護保険で出来る事・出来ない事・利用者様プライバシーの確保と守秘義務と情報公開について」の研修を行っている。	利用者一人ひとりの毎日の状態を記録して、職員同志が共有できるように、事務室の広いカウンターに9人分の記録簿が一覧できる形で置かれている。気づいたことをすぐ記録できるようにと、実質的な手法で、以前からの違いに気づく対応となっている。一人ひとりを尊重し、誇りを持って暮らしていけるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者様とのコミュニケーションをとり、できるだけ本人の意思を尊重し対応が出来るよう努めている。ケアプラン更新・作成時に利用者様の意見を取り入れられるよう話を聴く様にしている。また、意見がわかりにくい時は、嗜好調査等からの情報を活かして、できるだけ、本人の希望、過去の本人の希望や嗜好を基に支援をする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず利用者様の希望を優先できるようにしている。又、ケアプランへ個人的な一日の介護計画を記入してあり、毎日その通りというわけにはいかないが目安として対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に大きな鏡を設置した。通院時や外出前に整容してもらえるとよい。また、各個人の整容に関しては、個人記録に記録する様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員が利用者様と食事をし、米とぎや皿洗い等利用者様に手伝ってもらっている。時々老人会や家族会、の時など弁当や外食で好きなものや珍しいものを食べることもある。	食事は病院と一緒にの対応で、特に食事の内容にこだわっている。ご飯は玄米や麦入りで、おかずは食べやすいように、とろみを付けたり、ミキサーを掛けたり、刻みにするなど配慮している。好きな食べ物として、焼きそばやかき氷などの対応も行い、「家族会」や「誕生日」には一人ひとりの意見を聞き、食べることの楽しみを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日7回の湯のみに2杯ずつ水分摂取をしていただけるようにしている。個人記録への記録がある。夏時期に水分補給の強化月間としての特別取り組みをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯用の歯ブラシの使用をしている。又、週2回のポリデント洗浄を実施している。年に一度施設内研修にて口腔ケアの研修がある時がある。また年に一度個別ケアの徹底強化月刊として、口腔ケアに関する取り組みがある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンシートを使用しトイレ声掛け誘導を実施し、個人記録を残している。夜間帯の記録にも排泄パターンや介助方法等が記録され、対応の参考に出来る様にしている。	夜勤記録をつけ、オムツ使用を少なくするため、必ず声かけし誘導して対応している。褥瘡対策として初期対応が重要であることから、医療機関と連携して、長時間同じ姿勢で座ることを避け、1～2時間置きに歩くことを勧めるなどの配慮が行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の実施、排泄状況の確認と服薬対応の実施。昼の体操を毎日実施している。食事は管理栄養士による栄養管理がしてある。特に酷い時などは、職員会議時のショートカンファレンスにて参加職員と話をし水分調整や排泄時間の調整、下剤の調整等を行う時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの熱さや量で入浴してもらっている。あまり長風呂にはならないように心がけている。無理強いはせず、本人の好む時間帯をお勧めしている。入浴拒否が強い時は、清拭や足浴、おしぼり等での対応を出来る様に心がけている。	利用者の入浴は事業所の決めた曜日や時間帯でなく、一人ひとりの豊かな時間となるように本人の生活習慣にあわせた時間帯と温度で対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日血圧を4回計り体温測定を行い、身体状況を観察しながら、湿度や気温を調節し、好きな時間帯に睡眠ができるようにしている。が、廃用性症候群の増長にならないように注意する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月服薬管理委員会活動を実施しており、処方の変更や残薬の確認、処分薬の確認を職員会議時に報告している。又、変更や疾病による調薬の依頼は受診申し送りノートと受診にて実施できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月行事の参加や外出支援の実施をしている。日曜日のカラオケ大会や季節の行事や嗜好に応じた娯楽活動などに参加頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月行事検討委員会の活動として、外食、買い物、そのほかに季節の地域行事などに参加できるようにしている。	週2回病院に通院している人が大半であり、その他の日は近くの保育園や梅、桜、藤、つつじなどの花見に出かけたり、地域の敬老会や祭り見物など、利用者の希望を聞きながら対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設の連携委員の事務にて管理していただいている。外食時などに使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、暑中見舞いや年賀はがき等の手紙を書いて出せるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時代背景が同じような音楽をかけている。また、気温や湿度喚起に気を付けている。居室の掃除が毎日行っている。1カ月に1度は居室の大掃除を行っている。施設の業務日誌へ毎日施設の雰囲気の記事をする様になっている。	皆と一緒に食事をしたり、歌ったりと共有して過ごすスペースは明るく、空調も快適に図られている。匂いも漂っておらず、寒くもなく、暖かすぎず、快適な空間となっている。広すぎず、狭すぎず、適度な感覚での共同空間は親しみやすいもので、百歳を超えるという入居者へも、他の入居者と同様に声掛けしながら、楽しくホールで過ごすひと時をサポートする様子は、ほほえましく感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性を考慮して食卓や外出を支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用された家具、布団、食器等を使っている。居心地よく過ごしていただく努力をしている。	居室はそれぞれの工夫で畳を敷き、布団を利用したり、フローリングにベッドを利用するなど、様々である。廊下の壁に、ひまわり、ユリの花など描き、空間を優しくするだけでなく、自分の部屋の認知としてもらうなど、細やかな配慮が見られた。また、好きだった家具や使っていた茶碗等を持ち込むなど、居心地の良い空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんでいただいたり、食器を片づけていただいたり、米をといで炊いていただいたりしたことを個人日誌に記入している。個室の寝台利用や畳利用について対応している。		